

佐世保工業高が現場見学



現場見学の様子

寺岡出張所長による事業説明



長崎県立佐世保工業高等学校による現場見学会が18日、佐世保市の現場であった。見学したのは、オリエンタル白石(株)が施工する国道205号・深谷橋ランプ橋上部工事現場と、上り線を清本鐵工(株)、下り線を日本ファブテック(株)が施工する国道205号・江上高架橋上部工事現場。

オリエンタル白石(株)ら3施工者 未来の職人たちへ魅力発信

当日は土木科の1年生40人が見学し、施工者は未来の建設業を担う若者たちへ現場の魅力を伝えた。

見学会に先立ち、九州地方整備局長崎河川国道事務所佐世保国道維持出張所の寺岡岳彦出張所長が発注者を代表してあいさつ。寺岡所長は、これらの現場はいずれも佐世保市南部の慢性的な渋滞解消に向けたものと説明。

「将来、何らかの形で建設業界に関わってもらえれば。若い人がどんどん入職してもらえると、私たちとしても嬉しい」と話した。

続けて、各現場の現場代理人が事業概要などを説明。オリエンタル白石(株)の栗本英生氏は、PC橋の仕組みやRC橋との強度の違いを丁寧に説明。続けて同現場における作業の流れを動画で説明し、工場で造った橋桁を慎重に架設していく様子



事業概要を説明する栗本氏

に生徒からは「感嘆の声が漏れた。『国道205号・深谷橋ランプ橋上部工』は延長147.7mのPC4径間連結ポストテンション方式T桁橋。工場で5分割して製作した桁を現場で接合・緊張して一体化。工事は順調に進み、表面の仕上げ作業を経て今月末にも竣工する予定だという。」



一方、日本ファブテック(株)の宮下英明氏は鋼橋の基本的な性質から説明。「鋼橋は、現場で『大きなプラモデールのように』クレーンを使って組み立てます。接合する際にはかなり慎重な作業になる」と解説した。「国道205号・江上高架橋上部工』は上下線ともに鋼単純箱桁橋で、延長64.4m。まず佐世保市大塔側には仮受け支柱(ベント)を設置し、橋桁を架設する。川棚町側にも同様の作業に取り掛かり、最後に交差点内に架設。上り線から順に3ブロックほど連結した橋桁を500tクレーンで吊り下げて慎重に両橋桁間につなげる形だ。11月末

にも上下線とも架設が完了する予定。その後、生徒は2班に分かれて現場見学。「国道205号江上高架橋上部工事」の現場では清本鐵工(株)の牧野昌晃氏が説明し、「国道205号深谷橋ランプ橋上部工事」の現場では、PCの強度を栗本氏が解説した(＝写真)。生徒は現場で働く職人の声に耳を傾けていた。

見学会を終えた生徒からは、「橋を造るのにどれぐらいの人と時間が必要なのか?」などの質問があり、関心の高さがうかがえた。その中で栗本氏は「現場はいろんな人の協力があって成り立っています。その中でも、私はやはり現場が楽しいと思う。将来みんなと一緒に現場に立つことができれば嬉しい」と期待した。